



世界と共に学ぶ&地域と共に学ぶ

～インターローカル人材が切り拓く 地域社会の未来～



経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

国際文化学部
社会福祉学部 看護栄養学部

域学共創ってどんな授業？

入学から卒業までの一貫した学習プログラムです。世界と日本の地域の課題を学ぶとともに、自らの力で課題を解決するスキルを育成します。産学公（産業界、海外の大学、行政、NPO/NGO等）から講師を招いて実践的な教育を行います。ICTを活用して国内外をインターネットでつないだ講義も展開します。

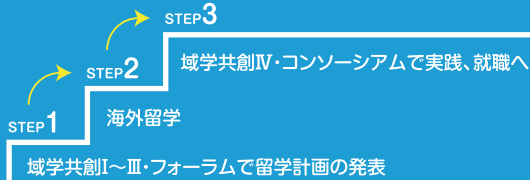


インターローカル人材とは？

グローバル時代の今、世界と日本の地域をつなげて課題解決に向かう姿勢をもち、地域の歴史、文化、自然、人的な資源の価値や可能性に着目して、地域を世界に売り込める力を有する人材が、求められています。

ステップ	テーマ	内 容
域学共創 Ⅰ (1年)	グローバル人材とは	ラーニングメソッドの習得 自分の学びのマネジメント力を身につけます。
域学共創 Ⅱ (2年)	地域の資源課題を知る	地域のキーパーソンに出会う 地域から講師を招き、地域資源や地域課題について学びます。
域学共創 Ⅲ (3年)	実践留学準備	グローバルな視点から地域課題を考える 産学公の講師とともに地域課題に関するテーマについて調査分析を行い、留学先での研究計画を立てます。域学連携フォーラムで、産学公の審査員の前で発表します。
域学共創 Ⅳ (4年)	留学後のキャリア教育	地域と協働し、地域の未来を構想する 留学中の研究結果を地域で発表し、学びを深めて卒業後の就職につなげます。

3つのステップで、 あなたもインターローカル人材



インターローカル人材の発表の場（フォーラム）

域学共創学習プログラムの学びの成果をフォーラムで発表し、産学公連携コンソーシアムの審査員から審査をうけます。最優秀賞・優秀賞などが授与されます。



グローバル人になるための第一歩

1

～授業を受けながら留学計画を建てる～

域学共創学習プログラムでは、まずはじめにラーニングメソッドを習得し、自分の学びのマネジメント力を身につけます。そして、地域のキーパーソンに出会うことで、地域資源や地域の課題を発見します。このように段階を経て学んだ学生たちは、グローバルな視点で地域課題に取り組むべく、留学計画を立てます。この成果は、産・学・公連携のフォーラムで発表され、審査員により審査されます。

【2015年1月フォーラムにて発表】

外国人も楽しめる古民家プロジェクト!

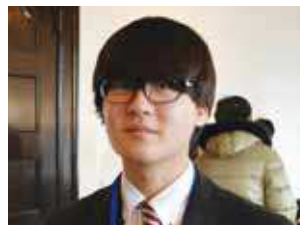


国際文化学科2年
阿武 美波

域学共創の講義をうけて、世界で活躍している講師の皆さんの講義と先生方の指導により、自分の留学目的を語学習得だけにとどめるのではなく、留学先で学べることを見つけて将来に活かしていくという、より深みがあるものにすることができました。

フォーラムに参加して、審査員の方々や一般の社会人の前に出て発表することにより、自分の計画内容に自信をもつこともできました。これらの経験を活かして、充実した留学生活を送るようにしたいと思います。

モノだけでなく、仕組みも作るデザイナー



文化創造学科2年
十亀 陽太

今回フォーラムで発表したことにより、将来に対する視野が広がったと感じています。自分の目標を定めるために、今までにないくらい自己と会話をしました。この過程において、自分自身についての新しい発見があり、自分自身を知ることができました。今までは興味が無い、関係ないと思っていた分野が、実は自らの興味と密接に関係していたという気づきもありました。本気で将来について考える機会は、確実に自己の成長に繋がります。このような視点で留学の目的をとらえることができました。

表現するということ、グローバル社会で活躍する!



国際文化学科3年
中村 詠汰

初めは「地域課題」と聞いて漠然としたイメージを持っていましたが、グローバル社会の最先端で活躍しておられるゲストスピーカーによる講演や、地域課題についてのワークショップ、学外で地域課題解決のための企画提案の機会を通して、企画の改善の糸口を見つけることはもちろんですが、自分にも地域課題の解決に携わることができるという自信につながりました。今後は自らの提案したワークショップの内容について熟考し、留学を通じて様々な視点から見つめ、実現化するよう改善していきたいと考えています。

域学共創プログラムによる留学は、ただ海外に行くだけではありません。地域課題の解決に向けた留学計画を立てて、留学中に培った経験や知識を元に、課題解決策をつくり、帰国後は域学共創Ⅳで解決のための活動を行います。実際に留学を行い、帰国後に域学共創フォーラムで発表した学生たちの企画を紹介します。

[2015年1月フォーラムにて発表]

放浪俳人種田山頭火と彼が愛したお酒

最優秀賞受賞



国際文化学科3年
奥野 貴大
(中国留学)

国際文化学科3年
林 在光
(韓国ソウル出身)

山口県の特産品である地酒を題材にして、地域共創の課題に取り組みました。

実際に学外の方々とコンタクトを取って計画を進行していくのは、学生という立場上大きな不安がありました。しかし実際は、地域の方々や取材先の酒造会社などが協力してくださり、なんとか事業を遂行することができました。自分たちの考えた事業を自ら進めていく機会をもったのは、貴重な経験だったと思います。みなさんもこの授業を積極的に履修し、地域社会との距離感を学んで欲しいと思います。

世界の今、居間[セカイマ]プロジェクト



国際文化学科3年
安田 絵理奈
(フィンランド留学)

国際文化学科3年
上島 千明
(タイ・スディヤワ-参加)

「タイのこと、フィンランドのことをもっと知ってほしい」「そこで見たこと経験したことを活かしたい」という思いからこのプロジェクトを始めました。世界の今について、居間にいる感覚で話し合いながら交流できる空間や場をコーディネートする事業です。授業では、どんな要素をどのように組み合わせるのかが適当か、夢を地域課題解決に繋げるためにはどうすればよいのかなどについて、さまざまな角度から分析し、内容を一つ一つつめて考えていくことができました。これからもプロジェクトの実現に向けて活動していきます。

めで(目で、愛で、メデ)みる!



国際文化学科4年
高橋 知里
(アメリカ留学)

国際文化学科3年
大牟田 樂子
(ドイツ・スディヤワ-参加)

海外経験で得た自分たちの強みを活かした企画案を立ち上げ、その実現に向けて行動してきました。自分たちの目で見たことを、映像をつかってウェブで公開し、考える人を増やします。講師を迎えて「30秒で世界を繋ぐ! 学生によるCM作り」について学び、自分たちのこれまでの経験を深く掘り下げ、経験に基づく強みについて考えられたことは、これからはじまる就職活動にも役立てることができると思います。域学共創は、学問の域を越えた、実学を通した学びであったと思います。

山口県の優れた地域資源を国内外に売り込めるよう、グローバルな視点やデザインの力を活用して、地域と共に課題の解決と発信をしていきます。ここで身につけた力は国内外のさまざまな地域の実践の場に応用できます。域学共創フォーラムにて「地域実習型」「海外フィールドワーク(地域資源アンバサダー)型」「プロジェクト型」の3つの活動事例について発表をし、意見交換を行いました。

[2015年1月フォーラムにて発表]

お茶ロードin山口(地域実習型)



山口県のお茶を国内外に発信するという目的で、お茶の生産・販売者に提案する企画書づくりに7名の学生が取り組みました。対象は小野茶と徳地健康茶。企業訪問、お茶のテイスタリング、強み・弱みを調べる環境分析を行い、「美容志向」というキーワードで、「お茶のあるライフスタイルづくり」の提案をし、事業企画書を作成しました。小野茶と徳地健康茶のコラボという視点で海外販売をめざした提案は、小野茶と徳地健康茶の双方から評価を得ました。

慶南&YPUジャント(海外地域資源アンバサダー型)



海外フィールドワークで韓国昌原市を訪問し、海外地域資源アンバサダーとして8名の学生が約10日にわたり、3つの活動を行いました。・日韓大学生共同セミナー・フリーマーケット(山口県の地域資源の発信)・日本文化体験ブース運営(異文化交流)です。また昌原市チャンドン市場で街づくりに成功した事例の現地調査を行ない、山口市に具体的な提案書を出しました。今後、山口市と姉妹都市である昌原市との国際交流や産業交流に対し、大学ならではの貢献をしていきたいと思っています。

「書」プロジェクト2014(プロジェクト型)



「書」をクールジャパンとして発信するため、「書カフェ」の企画にグローバルとローカルの要素を取り入れて進めました。山口県内の女流書家が指導するワークショップや海外で活躍する卒業生(デザイナー)のワークショップを実施し、書をアートとして楽しむこと、身近なものとして楽しむことを学びました。また山口のお茶のパッケージやラベルづくりに書のデザイン性を生かした表現方法を学び、試作品の開発を行いました。今後は書のグローバル化を念頭に、書カフェの企画運営をとおして海外へ発信をしていきたいと思っています。

域学共創学習プログラムで夢を叶えるために頑張る学生をピックアップ!

PICK UP!



文化創造学科3年 松屋 明子

2014年度「トビタテ!留学JAPAN」でフィンランドに留学

入学当初から留学したいという漠然とした思いがありました。2年次から始まったグローバル人材育成支援事業で「域学共創」という授業を受講し、グローバル人材とは何かについてじっくり考えながら、国際的な視点から地域課題をとらえて解決策を提案する訓練を重ねることで、グローバル化する中で将来なりたい自分を模索することができ、自分の留学計画が具体化していきました。

域学連携フォーラムでの受賞がきっかけで自信がつき、学科を越えた学生や社会人の方々との出会いはとても刺激になりました。留学計画をブラッシュアップし、留学のための奨学金第一期生に合格しました。現在はフィンランドのラップランド大学でプロダクトデザインと暮らしの関わりについてフィールドワークを通して学んでいます。地域の課題や魅力を自分で発見して具体的な行動を起こす力は、留学中の様々な場面で応用でき、役立っています。

PICK UP!



国際文化学科3年 大牟田 樂子

2015年度「トビタテ!留学JAPAN」でドイツに留学

地元の屋久島の地域文化があまり注目されていないという現実をどうにかしたいと思い、3年次に地域課題をグローバルな視点から考えることができる「域学共創」という授業を受講しました。

この授業で「私ができること」を考えたとき、映像を使って屋久島の地域文化をひろく発信していく「やくしまテレビ」を創ろうと考えました。留学計画をまとめ、フォーラムで発表した後に、広い視野を持って屋久島や日本を見直そうと思い、ドイツへの留学を具体的に考えるようになりました。

そこで留学について様々な支援を受けられる「トビタテ!留学JAPAN!」に応募し、第二期生として合格しました。留学にはもちろん不安はありますが、ワクワク感の方が大きいです。

「やくしまテレビを創る」という夢を叶えるために、頑張っていきたいと思います。

PICK UP!



国際文化学科4年 吉田 琴美

インターローカル人材認定第一号!

域学共創の授業や交換留学、様々な地域活動などを通じて、海外の社会について知るだけでなく自分の住む地域について再認識することができました。山口が抱えている課題を探り、学生ならではの提案方法をグローバル視点で考えたことで、世界と地域の関係性を考えることができました。交換留学やスタディーツアーでは、これまで学んできた語学力を活かし、海外で山口の発信をしました。この経験により、外から山口を見直すことができ、これまで気付かなかった地域の魅力を再発見することができました。大学生生活の4年間で、先生方をはじめ地域や海外で出会った方々から多くのアドバイスを頂きながら、自分の描く可能性がどんどん広がっていきました。この度、インターローカル人材の認定を頂きましたが、卒業してからの新たな始まりです。学生時代に経験した多くのことは社会に出てからの自信に繋がると確信しています。

インターローカルな企画、提案、アイデアが生まれています!

インターローカル人材には4つのタイプがあります。10年後の自分はこのタイプで活躍しているか考えることで、域学共創学習プログラムの学びとコンソーシアムの実践活動が一体となり、インターローカルな企画書が生まれます。

タイプ1

“地域のアンバサダーをめざす”
～地域と海外をつなぐイメージを醸成する～

タイプ2

“グローバルな視点で暮らしを豊かにする”
～地域の暮らしを豊かにする～

タイプ3

“グローバルな視点で旅をつくる”
～地域の文化交流を促進する～

タイプ4

“文化の多様性で地域を魅力的にする”
～グローバル社会を活用する～



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

<http://www.YPU.jp/>

発行

2015年3月

お問い合わせ

山口県立大学 教育研究推進室

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援チーム

TEL.083-928-5410

e-mail:global@yamaguchi-pu.ac.jp